

I

(1) 袋 α から 3 枚の札を順に取り出して並べる方法は ${}_9P_3$ 通りあり, これらは同様に確からしい.

また, 袋 β から 3 枚の札を順に取り出して並べる方法は ${}_{18}P_3$ 通りあり, これらは同様に確からしい.

事象 A 「 m が奇数」

は

「 m の一の位に対応する札の番号が奇数」

となる事象である (他の位に対応する札は何でもよい).

よって,

$$P(A) = \frac{5 \cdot 8P_2}{{}_9P_3} = \boxed{\frac{5}{9}}.$$

また, 札の番号を 3 で割った余りで分類すると,

$\{1, 4, 7\}$, $\{2, 5, 8\}$, $\{3, 6, 9\}$

の 3 つのグループに分けられる.

事象 B 「 m が 3 の倍数」

は, 取り出した札の番号について

(ア) 「3 枚とも同一グループ」または

(イ) 「各グループ 1 枚ずつ」

となる事象である.

よって, 取り出す順序も考えて

$$P(B) = \frac{3 \cdot 3! + 9 \cdot 6 \cdot 3}{{}_9P_3} = \boxed{\frac{5}{14}}.$$

さらに, $A \cap B$ については, m の一の位が 1, 3, 5, 7, 9 のいずれであっても, 十の位, 百の位 (に対応する札) の選び方が,

(ア) の場合 2! 通り, (イ) の場合 $6 \cdot 3$ 通り

ある.

よって,

$$P(A \cap B) = \frac{5 \cdot (2! + 6 \cdot 3)}{{}_9P_3} = \frac{25}{126}$$

であるから,

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{\frac{25}{126}}{\frac{5}{9}} = \boxed{\frac{5}{14}}.$$

次に,

事象 C 「 $n > 550$ 」

は, n の

「百の位が 6 以上」または

「百の位が 5 かつ十の位が 6 以上」または

「百の位と十の位がともに 5」

となる事象であるから,

$$P(C) = \frac{8 \cdot {}_{17}P_2 + 2 \cdot 8 \cdot 16 + 2 \cdot 1 \cdot 16}{{}_{18}P_3} = \boxed{\frac{77}{153}}.$$

最後に,

事象 D 「 $m > n$ 」

について考える.

$m > n$ となるとき, m, n に対応する 3 枚ずつの札について,

「その札の番号が k ならば $10 - k$ 番の札に交換」という操作を行うと $m < n$ となり, 逆に $m < n$ のときも同様の操作を施すと $m > n$ となる.

よって, $m > n$ となる確率と $m < n$ となる確率は等しいから, $m = n$ である事象を E とすると,

$$2P(D) + P(E) = 1 \text{ (全事象の確率)}. \quad \dots (*)$$

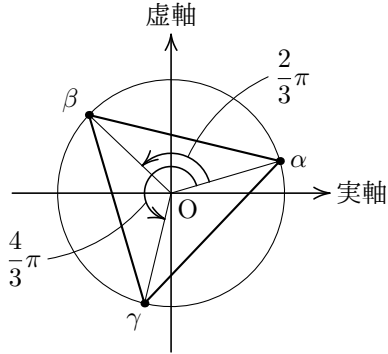
ここで, $m = n$ となる取り出し方は, m に対応する 3 枚の取り出し方それぞれに対して, n に対応する 3 枚の取り出し方が 2^3 通りずつあるから,

$$P(E) = \frac{{}_9P_3}{{}_9P_3} \cdot \frac{2^3}{{}_{18}P_3} = \frac{1}{612}.$$

よって, (*) より

$$P(D) = \frac{1}{2} \left(1 - \frac{1}{612} \right) = \boxed{\frac{611}{1224}}.$$

(2) 正三角形の頂点が、 α, β, γ の順に反時計回りと考えても一般性を失わない。



このとき、点 α を原点のまわりに $\frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$ 回転した位置に点 β, γ がある。

よって、

$$\omega = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi$$

とおくと、ド・モアブルの定理より

$$\omega^2 = \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi$$

となり、

$$\beta = \alpha\omega, \quad \gamma = \alpha\omega^2$$

と表せる。

ここで、ド・モアブルの定理より

$$\omega^3 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1.$$

また、 $\omega \neq 1$ より

$$1 + \omega + \omega^2 = \frac{1 - \omega^3}{1 - \omega} = 0$$

であることに注意すると、

$$\begin{aligned} \alpha + \beta + \gamma &= \alpha(1 + \omega + \omega^2) \\ &= 0, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha &= \alpha^2(\omega + \omega^3 + \omega^2) \\ &= \alpha^2(1 + \omega + \omega^2) \\ &= 0. \end{aligned}$$

よって、

$$|\alpha + \beta + \gamma| = \overset{カ}{\boxed{0}}, \quad |\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha| = \overset{キ}{\boxed{0}}.$$

また、

$$\alpha\beta\gamma = \alpha^3\omega^3 = \alpha^3$$

および

$$|\alpha| = \sqrt{(\sqrt{23})^2 + (\sqrt{2})^2} = 5$$

より、

$$|\alpha\beta\gamma| = |\alpha|^3 = \overset{ク}{\boxed{125}}.$$

さらに、 $z = -1 + i$ とおくと、

$$\alpha' = \alpha + z, \quad \beta' = \beta + z, \quad \gamma' = \gamma + z$$

であるから、

$$\alpha' + \beta' + \gamma' = \alpha + \beta + \gamma + 3z = 3z.$$

また、

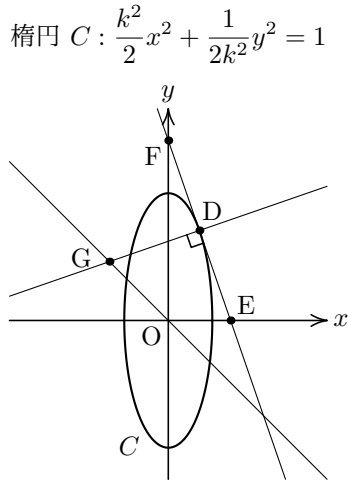
$$\begin{aligned} \alpha'\beta' + \beta'\gamma' + \gamma'\alpha' &= (\alpha + z)(\beta + z) + (\beta + z)(\gamma + z) \\ &\quad + (\gamma + z)(\alpha + z) \\ &= \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha + 2z(\alpha + \beta + \gamma) + 3z^2 \\ &= 3z^2. \end{aligned}$$

$$|z| = \sqrt{(-1)^2 + 1^2} = \sqrt{2}$$

であることに注意すると、

$$\begin{aligned} |\alpha' + \beta' + \gamma'| &= 3|z| = \overset{ケ}{\boxed{3\sqrt{2}}}, \\ |\alpha'\beta' + \beta'\gamma' + \gamma'\alpha'| &= 3|z|^2 = \overset{コ}{\boxed{6}}. \end{aligned}$$

II



(1) 点 $D\left(\frac{1}{k}, k\right)$ における C の接線の方程式は,

$$\frac{k^2}{2} \cdot \frac{1}{k}x + \frac{1}{2k^2} \cdot ky = 1,$$

すなわち,

$$k^2x + y = 2k. \quad \dots \textcircled{1}$$

① に $y = 0$ を代入すると $x = \frac{2}{k}$.

① に $x = 0$ を代入すると $y = 2k$.

よって,

$$E\left(\frac{2}{k}, 0\right), \quad F(0, 2k). \quad \dots \text{(答)}$$

(2) D における C の法線は, D を通り ① に垂直な直線であるから, その方程式は

$$1\left(x - \frac{1}{k}\right) - k^2(y - k) = 0,$$

すなわち,

$$x - k^2y = \frac{1 - k^4}{k}. \quad \dots \textcircled{2}$$

② と $y = -x$ を連立させると,

$$(1 + k^2)x = \frac{1 - k^4}{k}$$

より,

$$x = \frac{1 - k^4}{k(1 + k^2)} = -\frac{k^2 - 1}{k},$$

$$y = -x = \frac{k^2 - 1}{k}.$$

よって,

$$G\left(-\frac{k^2 - 1}{k}, \frac{k^2 - 1}{k}\right). \quad \dots \text{(答)}$$

また, このことから

$$\begin{aligned} \vec{GE} &= \left(\frac{2}{k} + \frac{k^2 - 1}{k}, 0 - \frac{k^2 - 1}{k}\right) \\ &= \left(\frac{k^2 + 1}{k}, -\frac{k^2 - 1}{k}\right), \quad \dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \vec{GF} &= \left(0 + \frac{k^2 - 1}{k}, 2k - \frac{k^2 - 1}{k}\right) \\ &= \left(\frac{k^2 - 1}{k}, \frac{k^2 + 1}{k}\right). \quad \dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

よって,

$$\begin{aligned} \vec{GE} \cdot \vec{GF} &= \frac{(k^2 + 1)(k^2 - 1)}{k^2} - \frac{(k^2 - 1)(k^2 + 1)}{k^2} \\ &= 0 \end{aligned}$$

より $\vec{GE} \perp \vec{GF}$ となるから,

$$\angle EGF = \frac{\pi}{2}. \quad \dots \text{(答)}$$

(3) ③, ④ より,

$$GE^2 = GF^2 = \frac{(k^2 + 1)^2 + (k^2 - 1)^2}{k^2} = \frac{2(k^4 + 1)}{k^2}$$

であるから, (2) の結果もあわせて,

$$S = \frac{1}{2}GE \cdot GF = \frac{1}{2}GE^2 = \frac{k^4 + 1}{k^2}.$$

一方, (1) の結果より

$$T = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{k} \cdot 2k = 2.$$

したがって, $S = \sqrt{2}T$ のとき,

$$\frac{k^4 + 1}{k^2} = 2\sqrt{2}.$$

$$k^4 - 2\sqrt{2}k^2 + 1 = 0.$$

$k^2 > 1$ であることも考慮すると,

$$k^2 = \sqrt{2} + 1. \quad \dots \text{(答)}$$

また, このとき $\theta = \angle OEF$ とおくと,

$$\tan \theta = \frac{OF}{OE} = k^2 = \sqrt{2} + 1$$

であるから, 倍角公式より

$$\begin{aligned} \tan 2\theta &= \frac{2 \tan \theta}{1 - \tan^2 \theta} \\ &= \frac{2(\sqrt{2} + 1)}{1 - (\sqrt{2} + 1)^2} \\ &= \frac{2\sqrt{2} + 2}{-(2 + 2\sqrt{2})} \\ &= -1. \end{aligned}$$

$0 < 2\theta < \pi$ であるから,

$$2\theta = \frac{3}{4}\pi, \quad \angle OEF = \theta = \frac{3}{8}\pi. \quad \dots \text{(答)}$$

III

$$(n+3)a_{n+1} - (n+1)a_n = 2(n+1) \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\sum_{k=1}^n kb_k = a_n \sum_{k=1}^n b_k \quad \dots \textcircled{2}$$

$a_1 = 1$ より, $\textcircled{2}$ は $n = 1$ においても成り立つ.

(1) $\textcircled{1}$ で $n = 1$ として

$$(1+3)a_2 - (1+1)a_1 = 2 \times 2.$$

これに $a_1 = 1$ を代入して

$$a_2 = \frac{3}{2}. \quad \dots (\text{答})$$

$\textcircled{2}$ で $n = 2$ として

$$b_1 + 2b_2 = a_2(b_1 + b_2).$$

これに $a_2 = \frac{3}{2}$, $b_1 = 1$ を代入して

$$b_2 = 1. \quad \dots (\text{答})$$

(2) $\textcircled{1}$ の両辺に $n+2$ を掛けて

$$(n+3)(n+2)a_{n+1} - (n+2)(n+1)a_n = 2(n+1)(n+2)$$

となる. $c_n = (n+2)(n+1)a_n$ であるから

$$c_{n+1} - c_n = 2(n+1)(n+2). \quad \dots (\text{答})$$

(3) $c_1 = 3 \times 2 \times 1 = 6$ となるので, $n \geq 2$ に対して階差数列の公式を使うと

$$\begin{aligned} c_n &= c_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (c_{k+1} - c_k) \\ &= 6 + \sum_{k=1}^{n-1} 2(k+1)(k+2) \\ &= 6 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{2}{3} \{ (k+1)(k+2)(k+3) \\ &\quad - k(k+1)(k+2) \} \end{aligned}$$

$$= \frac{2}{3}n(n+1)(n+2) + 2$$

となる ($n = 1$ のときも成立).

よって,

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{c_n}{(n+1)(n+2)} \\ &= \frac{2}{3}n + \frac{2}{(n+1)(n+2)}. \quad \dots (\text{答}) \end{aligned}$$

(4) $\textcircled{2}$ より, $n \geq 2$ のとき

$$nb_n = a_n \sum_{k=1}^n b_k - a_{n-1} \sum_{k=1}^{n-1} b_k.$$

一方で, 問題文より

$$a_n \sum_{k=1}^n b_k - a_{n-1} \sum_{k=1}^{n-1} b_k = a_n b_n + (a_n - a_{n-1})s_{n-1}$$

であるから

$$nb_n = a_n b_n + (a_n - a_{n-1})s_{n-1},$$

すなわち,

$$(n - a_n)b_n = (a_n - a_{n-1})s_{n-1} \quad (n \geq 2). \quad \dots (*)$$

ここで, 各項を計算すると

$$n - a_n = \frac{1}{3}n - \frac{2}{(n+1)(n+2)},$$

$$\begin{aligned} a_n - a_{n-1} &= \frac{2}{3} \{ n - (n-1) \} \\ &\quad + \left\{ \frac{2}{(n+1)(n+2)} - \frac{2}{n(n+1)} \right\} \\ &= \frac{2}{3} - \frac{4}{n(n+1)(n+2)}. \end{aligned}$$

$n \geq 2$ で $n - a_n > 0$ より $n - a_n \neq 0$ であることに注意すると, (*) より

$$b_n = \frac{2}{n}s_{n-1}$$

となり, $s_{n-1} \neq 0$ (注) より

$$d_n = \frac{2}{n}. \quad \dots (\text{答})$$

(5) $b_n = \frac{2}{n}s_{n-1}$ を変形して $\frac{nb_n}{2} = s_{n-1}$ を得る.

これを $s_n - s_{n-1} = b_n$ に代入すると

$$\frac{(n+1)b_{n+1}}{2} - \frac{nb_n}{2} = b_n \quad (n \geq 2)$$

となり, 整理すると

$$\frac{b_{n+1}}{n+2} = \frac{b_n}{n+1} \quad (n \geq 2).$$

よって,

$$\frac{b_n}{n+1} = \frac{b_2}{3} = \frac{1}{3}$$

となり,

$$b_n = \frac{n+1}{3} \quad (n \geq 2). \quad \dots (\text{答})$$

(注) $s_1 = b_1 = 1 > 0$ および $b_n = \frac{2}{n}s_{n-1}$ より, 数学的帰納法を使うと $b_n > 0$ が成立し, $s_{n-1} > 0$ がわかる.

IV

(1) $f'(x) = 2 \sin x \cos x + 4 \sin x + 4x \cos x - 4 \sin x$
 $= 2 \cos x(\sin x + 2x)$.

ここで、 $g(x) = \sin x + 2x$ とおくと、

$$g'(x) = \cos x + 2 > 0$$

より $g(x)$ は単調増加であるから、

$$x > 0 \text{ において } g(x) > g(0) = 0$$

となる。

よって、 $f'(x)$ の符号は $\cos x$ の符号と一致するから、

$$\alpha_n = 2n\pi - \frac{3}{2}\pi, \quad \beta_n = 2n\pi - \frac{\pi}{2}$$

として、 $f(x)$ の増減表は以下のようになる。

x	$(2n\pi - 2\pi)$	\cdots	α_n	\cdots	β_n	\cdots	$(2n\pi)$
$f'(x)$			+	0	-	0	+
$f(x)$			↗	極大	↘	極小	↗

極大値は $f(\alpha_n) = (8n - 6)\pi + 1$, \cdots (答)

極小値は $f(\beta_n) = (-8n + 2)\pi + 1$. \cdots (答)

(2) 以下、 C_i ($i = 1, 2, 3$), C を積分定数とする。

$$\int \sin^2 x \, dx = \int \frac{1 - \cos 2x}{2} \, dx$$

$$= \frac{x}{2} - \frac{\sin 2x}{4} + C_1,$$

$$\int 4x \sin x \, dx = 4x(-\cos x) - \int 4(-\cos x) \, dx$$

$$= -4x \cos x + 4 \sin x + C_2,$$

$$\int 4 \cos x \, dx = 4 \sin x + C_3$$

となるので、

$$\int f(x) \, dx$$

$$= \frac{x}{2} - \frac{\sin 2x}{4} - 4x \cos x + 8 \sin x + C.$$

\cdots (答)

(3) $h(x) = x - \sin x$ とおくと、 $0 < x < \frac{\pi}{6}$ において

$$h'(x) = 1 - \cos x > 0$$

となるから、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{6}$ において $h(x)$ は単調増加である。よって、この区間において

$$0 = h(0) \leq h(x)$$

となるので $\sin x \leq x$ が成立する。

一方、 $k(x) = \sin x - \frac{3}{\pi}x$ とおくと

$$k'(x) = \cos x - \frac{3}{\pi}.$$

$\cos \gamma = \frac{3}{\pi}$ ($0 < \gamma < \frac{\pi}{6}$) を満たす γ が存在し、

これを用いて $k(x)$ の増減表は以下のようになる。

x	0	\cdots	γ	\cdots	$\frac{\pi}{6}$
$k'(x)$			+	0	-
$k(x)$	0		↗		↘
					0

よって、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{6}$ において $0 \leq k(x)$ となるので、

$\frac{3}{\pi}x \leq \sin x$ が成立する。 (証明終り)

(4) (1) より、 $f(x)$ は開区間 $(2n\pi - \frac{1}{n\pi}, 2n\pi)$ において単調増加であり、 $f(2n\pi) = 4 > 0$ であるので

$$f\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) < 0$$

を示せばよい。

$f\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right)$ の値を求めると

$$\sin^2 \frac{1}{n\pi} - \left(8n\pi - \frac{4}{n\pi}\right) \sin \frac{1}{n\pi} + 4 \cos \frac{1}{n\pi}$$

$$= \sin^2 \frac{1}{n\pi} + \frac{4}{n\pi} \sin \frac{1}{n\pi} - 8n\pi \sin \frac{1}{n\pi} + 4 \cos \frac{1}{n\pi}.$$

ここで、 $0 \leq \frac{1}{n\pi} \leq \frac{\pi}{6}$ に注意して、(3) で示した不等式を使うと、

$$\frac{3}{n\pi^2} \leq \sin \frac{1}{n\pi} \leq \frac{1}{n\pi} < \frac{1}{3}$$

となるから、

$$f\left(2n\pi - \frac{1}{n\pi}\right) < \frac{1}{9} + \frac{4}{3} \cdot \frac{1}{3} - 8n\pi \cdot \frac{3}{n\pi^2} + 4$$

$$= \frac{5}{9} + 4 - \frac{24}{\pi} < 0$$

となり、題意が成立する。 (証明終り)

(5) $\theta_n = 2n\pi - p_n$ とおくと, (4) の結果より,

$$0 < \theta_n < \frac{1}{n\pi} \left(< \frac{\pi}{6} \right). \quad \dots \textcircled{1}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n\pi} = 0$ より, はさみうちの原理から,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \theta_n = 0. \quad \dots \textcircled{2}$$

さて, $I_n = \int_{p_n}^{p_{n+1}} f(x) dx$ とおくと,

$$I_n = \int_{p_n}^{2n\pi} f(x) dx + \int_{2n\pi}^{(2n+2)\pi} f(x) dx + \int_{(2n+2)\pi}^{p_{n+1}} f(x) dx.$$

ここで, $t = x - 2n\pi$ と置換すると,

$$\begin{aligned} \int_{p_n}^{2n\pi} f(x) dx &= \int_{-\theta_n}^0 f(t + 2n\pi) dt \\ &= \int_{-\theta_n}^0 \{f(t) + 8n\pi \sin t\} dt \\ &= \int_{-\theta_n}^0 f(t) dt + 8n\pi [-\cos t]_{-\theta_n}^0 \\ &= \int_0^{\theta_n} f(t) dt - 8n\pi(1 - \cos \theta_n). \end{aligned}$$

($f(t)$, $\cos t$ は偶関数であるから.)

① と (1) の結果より, $0 \leq t \leq \theta_n$ において,

$$0 < 4 = f(0) \leq f(t) \leq f(\theta_n) < f\left(\frac{\pi}{2}\right) < 8$$

であるから,

$$0 < \int_0^{\theta_n} f(t) dt < \int_0^{\theta_n} 8 dt = 8\theta_n.$$

これと ② より, はさみうちの原理から,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^{\theta_n} f(t) dt = 0. \quad \dots \textcircled{3}$$

また, ① と (3) の結果より,

$$1 - \cos \theta_n = \frac{\sin^2 \theta_n}{1 + \cos \theta_n} < \frac{\theta_n^2}{1 + \cos \theta_n}.$$

$$0 < n\pi(1 - \cos \theta_n) < \frac{n\pi\theta_n^2}{1 + \cos \theta_n} < \frac{\theta_n}{1 + \cos \theta_n}.$$

ここで, ② より $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\theta_n}{1 + \cos \theta_n} = 0$.

よって, はさみうちの原理から,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n\pi(1 - \cos \theta_n) = 0. \quad \dots \textcircled{4}$$

③, ④ より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_{p_n}^{2n\pi} f(x) dx = 0.$$

同様に

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_{(2n+2)\pi}^{p_{n+1}} f(x) dx = 0.$$

また,

$$\begin{aligned} &\int_{2n\pi}^{(2n+2)\pi} f(x) dx \\ &= \left[\frac{x}{2} - \frac{\sin 2x}{4} - 4x \cos x + 8 \sin x \right]_{2n\pi}^{(2n+2)\pi} \\ &= -7\pi. \end{aligned}$$

以上より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I_n = 0 - 7\pi + 0 = -7\pi. \quad \dots (\text{答})$$